

ふるさと歴史アラカルト

錦帯橋創建350年に向けて

令和5(2023)年は、錦帯橋が創建された延宝元(1673)年から350年の節目になります。

錦帯橋が架かる以前から横山と錦見を結ぶ橋は岩国の人々に求められ、何度も架橋が試みられてきました。ところが水量が多く、河床も不安定な錦川の流れに耐え得る橋はなかなかできませんでした。そのような中で生まれたのが、複数のアーチ状の橋を大きな橋台でつなぐ錦帯橋特有の形です。

この特徴的な形は、第三代岩国領主・吉川広嘉が読んだ『西湖遊覧志』という中国の本に描かれた絵を参考にできたと言われています。その本を提供したのは、中国からやってきた独立性易という人物です。彼はもとと戴笠と名乗る中国の文人でしたが、承応2(1653)年に船に乗り、長崎にやってくることになりました。その後、黄檗宗の開祖である隠元の弟子となり、僧となって日本に帰化しました。そんな独立が、岩国と関わり始めるのは、寛文4(1664)年頃のことです。

独立は篆刻をはじめ漢詩や書などに長けていましたが、医学も修めていました。そのため、病気がちであった吉川広嘉のもとに医師として呼ばれ、岩国で治療にあたることになりました。広嘉の診療の中で、独立の故郷・西湖の話題になり、所持していた『西湖遊覧志』を見せることになったのではないかと推測されます。

こうして、錦帯橋の原案がもたらされ、錦川の流れに負けない橋の構想が練られます。そして延宝元(1673)年10月、ついに5連のアーチを持った大橋・錦帯橋が完成しました。しかし独立は、錦帯橋が完成する前年、今からちょうど350年前の寛文12(1672)年11月、病によって長崎にて77歳で亡くなっていました。広嘉は独立の霊前に家臣を派遣しており、死を悼む内心が察せられます。

さまざまな人々の思いが込められた錦帯橋。完成するまでの歴史も踏まえた上で、これからも錦帯橋の歴史を守りながらつないでいきたいものです。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館
住所：横山二丁目7-19 ☎(41)0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

12月25日(日)まで、常設展示室で独立性易関係資料を展示しています

写真：『西湖遊覧志』



岩国市 人口・世帯

人口 128,881人【前月比 -160人】 男性 61,454人 女性 67,427人

世帯 65,342世帯【前月比 -44世帯】 ※外国人人口を含む(2022年11月1日現在)

交通事故発生件数

10月分事故件数 20件(172件) 死者数 0人(0人) 傷者数 27人(200人)

※高速道路発生分を除く。()内は2022年累計

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。
お問い合わせは、広報戦略課 ☎(29)5016 FAX(21)3337